

令和元年度を振り返って

朝日 滋也

令和の新時代に、全国 1100 を超える特別支援学校の代表として一年間務めさせていただきました。御支援、御協力をいただきました全国の会員の皆様に、心から御礼を申し上げます。

この一年間を四点にまとめて振り返ります。第一点として、7月には全会員へのアンケート調査を実施し、皆様から学校経営と新学習指導要領に関する貴重な御意見を伺うことができ、8月末には学校経営研究協議会を開催、その後、基本問題検討委員会等で議論し、新しい全特長ビジョンを策定することができました。特別支援学校が抱える多種多様な課題の中で、教育の専門性を高めるとことと次代を担うミドルリーダの育成が大きな課題であると再認識できました。また、全国には優れた実践が多々あること、特に地区内における同一テーマの研究は充実度が深いことを知ることができました。

第二点目は、会を代表し中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員として、「教育課程部会」「教員養成部会」に出席しました。「新しい時代の初等中教育の在り方について」諮問され、それに連動する形で9月からは「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」にも加わりました。GIGA スクール構想、小学校の教科担任制、教員養成の在り方や免許制度などが議論されていますが、外側の改革が進んでも、学校の内部の改革が進まない限り、子供たちへの恩恵にはつながりません。「内部をかき混ぜ、学校全体を熱くするのは校長の仕事である。国の施策も学校が内部から熱くなれるものなければならない」と主張してきました。

第三点目は、東京オリンピック・パラリンピック2020大会の開催に向けて、みんな de スポーツ推進委員会を中心に、全特長としての取組を推進できたことです。一年前イベントに参加をさせていただきましたが、ぜひとも来年には、特別支援学校の子供たちに自国での開催の醍醐味を感じ取ってもらいたいものです。

第四点目として、新型コロナウイルスの対応です。まさに対応の只中にある課題です。

3月の全国一斉臨時休業要請から、特別支援学校においては「感染症対策」「子供の居場所」「学びの保障」という課題を突き付けられました。誰もが見通しのもてない中、文部科学省からの情報を会員にお伝えするとともに、現場の意見も提言もしてまいりました。3月末、ある県の会員から、「教育実習と介護等体験」について国の考え方を示してほしいと文部科学省につないだところ、4月3日は全国に通知文が出されるなど、迅速な対応をしていただきました。また、9月入学についての意見書について、種別の会長、事務局の御尽力により全特長としては「①7月卒業・9月入学では、障害のある子供たちには支援の連続性が保てない。②早期教育の開始が半年遅れる」といった理由から、慎重な検討を求めることにしました。

「新型コロナウイルス感染症対策の現状を踏まえた学校教育活動に関する提言」(令和2年5月1日)では、特別支援学校の児童生徒の実情と学校の実態を主張し、障害に応じた配慮が必要と書き込みをお願いすることができました。

私は定年を迎え、第二から第四の課題については新会長及び新体制に引き継ぎます。大きな課題を抱えての令和2年度となりますが、再任用校長、一会員として皆様と共に全国の特別支援学校のため、精一杯努力を続ける所存です。これまでの御厚情に感謝し、挨拶といたします。